

こども未来コース（乳幼児期編）

〔概要〕：人生のスタートであり目覚ましい発達を遂げる乳幼児期（0～6歳ぐらい）に関する発達心理学の知見を紹介します。遺伝と環境、胎児期の発達、有能な赤ちゃん、養育者との相互作用、愛着としつけ、ことばの発達、遊びの大切さなどについて考えていきます。（全6回）

〔対象〕：乳幼児期の子どもの発達に関心のある方

〔講師〕：広島国際大学 健康科学部 心理学科 准教授 鹿嶋 達哉

回数	日時	講座名	講座内容
1	6月1日（水） 10：00～11：15	生まれか育ちか？ 胎児が笑っている？	生まれ（遺伝）も育ち（環境）のどちらも大切ですが、最近では遺伝の影響力の大きさが行動遺伝学により明らかにされつつあります。生まれながらの能力と個性を有した子どもにとって、環境はどのように大切かを考えていきます。胎児の著しい成長についても紹介します。
2	6月8日（水） 10：00～11：15	赤ちゃんにもたし算ができるの？	昔は赤ちゃんは「何もできない」「白紙」と考えられていましたが、最近の研究から赤ちゃんは触って・嗅いで・味わって・聞いて・見て、体を動かして外界を学んでいくことが明らかにされつつあります。赤ちゃんの優れた能力について考えていきます。
3	6月15日（水） 10：00～11：15	抱っこすると泣き止むのはなぜ？	子どもと養育者は五感（触嗅味聴視）を通じて、ことばと発声を使いながらつながっています。あやす行為は養育であると同時にコミュニケーションでもあり、両者のやりとり（相互作用）にもなっています。子どもの行動・表情・発声の微妙な違いを養育者が認知・判断し、行動・表情・発声で的確に反応するという複雑なやりとりについて考えていきます。
4	6月22日（水） 10：00～11：15	養育者がいなくなると泣くのはなぜ？	子どもには世話をしてくれ、やりとりをする養育者がどうしても必要です。子どもは養育者のそばにいようとして、特定の養育者と愛着関係を形成します。愛着は重要ですが、いろいろなタイプがあり、問題も生じやすくなります。子どもと養育者の関係について愛着研究を中心に考えていきます。
5	6月29日（水） 10：00～11：15	直そうとしても「テビレ」と言い続けるのはなぜ？	ことばの発達は驚異です。ことばはコピーされるのではなく子どもが自ら産み出していくものです。言い間違いや誤用は子どもが考えている証拠です。また、ことばは身体・認知・感情の発達と物の環境・人間関係を土壌としてゆっくり育ってきます。ことばの発達を子どもの成長全体と関連づけながら考えていきます。
6	7月6日（水） 10：00～11：15	遊んでばかりいちゃダメ？	子どもは遊びを通して、自然・環境、人や自分の気持ち、社会のきまりやルールを学びます。遊びで学ぶことを教えるためにはプリントが何枚必要でしょうか？（そもそも教えられるでしょうか？）しかも自分から進んで楽しみながら遊ぶことで、自主性や主体性が身につきます。さらに、子どもは遊びながら自らの課題に取り組み、解決しているとも考えられます。遊びの大切さをことばで確認していきたいと思えます。

※留意事項

オンライン開講（Zoom）のため、受講にはZoomを利用できる環境が必要です。

講座内容は原則、2021年度と同様になりますので、受講の際はご注意ください。

